



外国人講師のアシスタントとして授業に参加。日本の学校とは違う少人数、ディスカッション中心の授業は大いに刺激になっている

英語教員のための
インターンシップ制度

3つの柱



- ① 英語力を磨く!
- ② ティーチングスキルを磨く!
- ③ 国際感覚を磨く!

日本にいなながらにして

アメリカの大学の

ティーチングスキルが身につく

スキルアップ
を目指す
先生必見

テンブル大学ジャパンキャンパスのアカデミック・イングリッシュ・プログラムでは、高等学校の英語教員のためのインターンシップ制度を実施しています。この制度に4月から参加している、埼玉県立春日部女子高等学校教諭 安田やよい先生にインターンシップの概要をお聞きしました。

単なる受験英語ではない 英語教育を求めて

春日部女子高等学校は、国際社会に貢献できる人間の育成を目標に、平成8年度に外国語科を開設。また、文部科学省の「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（セルハイ）」にも指定されるなど、英語教育を重視している学校。海外留学を目指す生徒も増えています。

一方、大学入試の仕組みも変わり、単なる穴埋

めや暗記式ではない英語教育が求められています。

「現場のさまざまなニーズにこたえられる力をつけたい」、これが同高校で英語教師を務める安田やよい先生の、テンブル大学ジャパンキャンパスの英語教員のためのインターンシップ制度に参加した動機です。

テンブル大学ジャパンキャンパスは、アメリカ・ペンシルベニア州立テンブル大学の日本校。授業はすべて英語で行われる、少人数・ディスカッション中心のアメリカンスタイル。学生の約半数は外国人学生で、日本にいなから国際感覚が身につく大学であることも、志望動機のひとつ。さらに、本プログラムの特典として、TESOL（注）が受講できることも魅力だと安田先生。

英語漬けの環境で 英語教授法を学ぶ

インターンシップの内容は、外国人講師の授業のアシスタント業務、英語教授法の研究、テンブル大学学部課程の聴講、授業計画の作成と実施、エッセイライティングなどのほか、チューターとして学生の個別指導にあたり、国際交流プログラムに参加するなど、多岐にわたります。

本制度の大きな柱は英語力の向上、指導力の向上、そして国際感覚を身につけること、の3つ。1年間のコースのほぼ3分の1を終えたところですが、その成果は大きいようです。「英文をただ読むだけでなく、それについて意見を述べ議論できる力が求められ、日本の授業スタイルと全く違

うことを実感します。ここで学んだことをぜひ授業に取り入れたい。大学受験だけを目標にするのではなく、その先、大学で何をしたいのか、英語を学んで自分の人生をどう豊かにしたいのか、そこまで考えられる生徒を育てたいと思います。」

1. 国際交流プログラム、サマーキャンプにも参加。日本風のバーベキューや餅つきは、外国人留学生にとって新鮮な驚きだった様子 2. 学生の個別指導にも応じる。予約はいつも満員御礼 3. ディレクターからエッセイライティングの指導を受ける



4. 大学内の施設は自由に利用できる。ただいま図書館で勉強中

テンブル大学ジャパンキャンパス 「英語教員のためのインターンシップ制度」についての詳細はこちら <http://www.tuj.ac.jp/aep/teachers>

（注）TESOL：他言語話者に対する英語教授法（Teaching English to Speakers of Other Languages）。教育学英語教授法修士号や博士号という学位が取得できます。テンブル大学ジャパンキャンパスでは、修士号と博士号の両方を取得することができます。<http://www.tuj.ac.jp/tesol>